

充実した学習活動を支える「学習支援部会」

学習支援部会は、取組の継続と新たな分野への人材の掘り起こしが進められている。

発足当初から、3年生の「わたしたちのまち」「まちの人たちが受けつぐ行事」、4年生の「水の学習」など、特に社会科を中心に、地域の方々の持つ専門性が授業の中で発揮されてきた。また、細かな技能習得のために、5・6年生の家庭科「ミシン学習」では、5・6人の児童に一名の方がつく支援が継続できている。

さらに、専門性を活かした体育の「水泳指導」「器械運動」、3・4年生「書写指導」、個々への技術獲得支援のための2・3・4年生算数ではそれぞれ「ものさし」「分度器」「コンパス」を使用する学習、全学年体育「水泳学習時の安全確保のための監視補助」など教科や内容・対象学年も広がっている。そのほか、3・4年の書写に入ってくれている方は、6年生に「水墨画」の授業も指導していただいて、もう5年目となる。また、今年度は、3年生が図工のパズル作りの時、釘打ちをする作業がありボランティアを募り、4名の方に来ていただいた。このように、学級担任のニーズに応じて毎年新たな内容が加わってきている。応援団もそれぞれの方々が継続して指導していただいているケースも多く、児童との信頼関係が生まれ、学習の成果も大きい。また、回を重ねることで学習内容の打合せ等がスムーズに運ぶようになってきている。



3年生の社会科地域学習。地域の「もの・こと」を学んでいく過程で講師の応援団の方々（「ひと」）はなくてはならない存在。地域の方々から直接語られる身近な歴史や文化は、子どもたちの地域への関心を高め、学習への継続性や内容の充実に大きく関わっている。



4年生の社会科「水の学習」と「福祉の授業」。自分たちの飲んでいる水や地域の福祉のことについて詳しく説明。子どもたちにとって、身近な課題として学習に取り組むことができる。特に福祉学習は、4年生の本年度の総合のメインとなる学習である。



3年生の図工「パズル作り」の学習。板に絵を描いて、ビー玉の通過道を考え、まず、周りの釘を打ちます。釘の打ち方を応援団やおじいちゃんに教わりました。1回教えてもらうことで中の通過道の部分は自分で打てました。



5年生の家庭科「ゆで卵をつくろう」。ゆでる時間をいくつか設定し、ゆであがりの違いも学びました。ほうれん草のおひたしも作りました。おばあちゃんや応援団の方とふれあいながら楽しく学習しています。



器械運動の授業にも、応援団が入っています。苦手な児童も多くの方々携わってくれることで、たくさんのコミュニケーションがとれるので、苦手意識も減る傾向があります。



国語の授業に係わった、点字の体験。実際に一文字ずつ打ってみたり、僅かな凹凸とその並びを自分の手で触れてみたり、初めてのことに戸惑う子どもたちに優しく根気よく助言してくれる。日赤奉仕団や社会福祉協議会の方々



6年生の「水墨画体験」。日本の伝統文化である「水墨画」を本格的に体験しました。墨の濃淡や筆使いなどを、3・4年生の書写にも入っている応援団の方に教えてもらいました。貴重な体験でした。



裁縫の授業にも、毎年多くの応援団やおばあちゃんが指導してくれます。多くの方々が入ってくれるので、子どもたちも安心して、取り組むことができます。